

令和2年度「山の実り調査」の結果について

1. はじめに

各総合支庁森林整備課及び環境課から推薦された方々を中心に、アンケート調査を行いました。アンケートの回答と環境科学研究センターの現地調査結果を合わせて、令和2年度の状況について取りまとめましたので、その結果を報告します。

2. 調査方法

山に精通している方々（434人）への郵送によるアンケート調査。調査対象樹種はアケビ、オニグルミ、クリ、サルナシ、ヤマブドウ、キイチゴ類の6種。

3. 調査時期（アンケート記入時期）

令和2年8月7日～11月6日

4. アンケート回答者数

回答者数 188名

5. アンケート結果による調査樹種の豊凶傾向（詳細は別添に記載）

※ 環境科学研究センターの現地調査結果と合わせて判断しています。

今年度は、各地でクリの実がよくなったようです。

今年度の調査樹種の傾向を大きくまとめると下記の通りです。

クリ	→ やや豊作傾向
オニグルミ、アケビ、キイチゴ	→ 例年並み傾向
サルナシ、ヤマブドウ	→ やや凶作傾向

6. 寄せられた情報や御意見（自由記載）※主な情報や意見を抜粋して記載しています。

昨年は小雪でしたが、今年のクマの様子についてお気づきのことがありましたら
お聞かせください。

雪が少なかったので、冬眠しない個体や、春早くから動き回る個体も見られたという報告があった。

今年は人里でのクマの出没が数多く見られた年であったが、その理由として、個体数が増えたことや、住処を里山に変えたクマもいることなどの意見が多かった。一方で高山や河原でクマを見かけたという情報もあった。

さらに、クマの餌となっているものに、ドングリやクリのほかに、クルミ、大豆、落穂、果樹、タケノコ、トウモロコシ、ソバなどの例が報告された。

<クマの出没が「多い」と感じている>という御意見

「 小雪のためか春早めにクマの出没が確認された。今年は山の実りが不作のために 9 月後半から多く目撃情報があると思う。人的被害がなければと思っている。」

「 春から出没情報が寄せられた。1 m前後の 2、3 歳が多く出没。イノシシ用のトラップ罠や箱罠に影響があった。」

「 小雪のため冬に冬眠しないクマが見られた。また、ブナが大凶作のため、早くから里近くに出没するのが見られた。」

「 クマの出没が多く、昨年の倍くらいかと思う。有害駆除でも 4 頭の捕獲である。民家の近くまでクマが多い。」

「 7 月の町内への出没から 1 1 月まで、ほとんどクマ情報により出動。山に関わってからこんな年はなかった。民家付近の出没が多く、人身事故がなかったので一安心か。まだまだ警戒を要する。」

※ 「クマを見るのが少なかった。」という御意見

「 昨年よりクマの出没件数は減ったが、街のほうへ来ることがある。」

＜クマは人里で見られることが多くなった＞という御意見

「春のクマの痕跡は例年通りと感じたが、8月からの高温のためか、木の実が凶作で、これまでに以上に人家、人里へ降りてくるクマが多いと思う。」

「昨年よりも住宅地に近いところに多く現れている。そして子連れのクマが多いように思われる。駆除数も増加傾向にあり、なんらかの対策を施す必要がある。」

「奥山より里山の方がクマの出没が多いような気がする。」

「今年は子グマが多い。また里山に住み着いているのが増えているようである。春先、奥山は雪がなく、また餌もないため早くからクマの移動が見られた。このごろ人を見ても逃げないクマが多く見うけられる。また、人に向かってくるクマも多くなっているようである。」

「例年に比べて、里の方での出没が多発している。私の住む町では、毎日のように情報が来ているようだ。畑や倉庫などのものも荒らしているようなので、山の食べ物が少ないのか、里の食べ物を覚えてきているのかと思っている。」

「里山での目撃が多く、田の中で稲もみを食べているなどの目撃もある。このクマは箱畏にばかり、射殺。また目撃のほとんどが子連れのようだ。」

「春の生息確認調査では、ほとんど個体が発見できなかった。小雪で雪上の足跡が確認できないこともあるが、山中に出ている数も少ない。7月以降の出没が信じられないほど見られなかった。7月以降、人家近くの畑でトウモロコシの被害が非常に多い。(体長1m、体重40kgの若いクマが多く見られる。)9月、10月の出没は想像以上のものがある。今年のようにナラ類が不作の年は今までにあったはずなのに、若いクマが大量に増えたように思える。」

「(クマは)里山から少しずつ町に向かって移動している。今年は町の中心部の学校にも現れた。」

※「クマはいつも里にいる。」という御意見

「春、落葉樹が芽吹き葉をつけるころから、秋まで、住宅地近くの山にクマは毎年いる。(住民は気が付かないだけ)」

「民家近くにおいて、人が近づくと隠れる。檻をかけているが、学習するのか入り口近くの餌だけ食べてかからない。檻を壊す個体もいる。」

「奥山と里山の生息域が分かれてきているようである。」

＜クマの生態について＞の御意見

「平成30年のブナの豊作により、令和元年の子グマの数は、いつもは1頭なのだが2～3頭と推測される。子を連れて生活するのは2～3年とされており、令和2年親離れを迎えており、本年並びに来年多くの目撃がされるはずである。西川町大井沢地区には危険性も含め地区内回覧をしている。」

「標高の高い山での遭遇が多く、木の実がなる前に花を食べに来ているのではないかと思われた。コロナの影響で人が少ないのもありだと思われる。」

「朝日連峰の大朝日小屋で聞いたことだが、古寺登山口から小朝日岳の間でクマを見たという登山者が二人いた。」

「今年は小雪からか1月初めもカモシカ調査の時に足跡がみられた。夏は「川の駅」の河原に日中(昼)にクマがいた。秋はどこに行ってもクリが食べられ、糞も多数。そばの実の食害もあったそうだ。」

＜クマの食べているものについて＞の御意見

「集落の近くまででていて、堆肥に混ぜていた米ぬかを食べている。」

「クマの頭数が多く、子グマ連れが多く見られ、タケノコ、カラドリ、クリはまだ青いうちから食べている。民家近くに来て畑作物などを荒らしていく。山に入ると無数の獣道があり、集落と集落を数日おきに回って歩くようである。」

「さくらんぼ、ブドウなど果樹園に来ている。」

「夏場もクマが出没して大騒ぎになったが、水場が渇水していることが原因かも。一度おいしいトウモロコシ畑で食べなれると毎夜下山し、出没する。」

「稲ではヒメノモチの田んぼに3回来た。」

「今年はブナ・ナラの実が少ない。クルミ、クリの実も少ないので、民家の近くのクリやクルミの実を食べている。」

「今年捕獲されたクマの状況は、いずれもやせている。胃の内容物はいずれも里のもの(実の入っていない稲や乾燥した牧草、果物 etc)であった。」

「鶴岡市内に出現して捕殺される事件が2件あった。10月8日は現場にいたが、飢えて出てきたのではないと思われる。胃の内容物は大豆と落穂であった。味を覚えた。転作大豆が放置されたままならば、もっと出てくるであろう。」

お住まい（お仕事）のところに「クマハギ」は見られますか

置賜地方に「クマハギ」の被害が多発していて、次に奥羽山脈ぞいに、上山市、山形市、天童市、東根市、尾花沢市などで被害が多いという報告だった。庄内、最上はまだ被害が少ないようである。

<村山地域>

- 「 東根市猪野沢地区ではクマハギ被害あり。（やや多い）」
- 「 西川町ではクマハギ被害がたくさんある。」
- 「 上山市内に多数あり。」
- 「 天童市とくに田麦野地区で多い。」
- 「 山形市山寺でクマハギによるスギの立ち枯れが目立つ。」
- 「 尾花沢市から山形市までの奥羽山脈で被害がある。」

<最上地域>

- 「 真室川町では秋山で見られる。」
- 「 大蔵村肘折から葉山山系に被害が見られる。」

<置賜地域>

- 「 置賜地域ではクマハギがたくさん見られる。」
- 「 高畠、米沢、川西、南陽、飯豊、小国ではクマハギ被害が多数。年々増加傾向にある。」
- 「 小国町、米沢市では被害がたくさん見られた。」
- 「 飯豊町の中津川は特にクマハギ被害が多い。」
- 「 長井市西山で最近クマハギが見られるようになってきた。」

<庄内地域>

- 「 鶴岡市南部でクマハギ被害あり。」
- 「 酒田市（旧平田町北俣）でスギのクマハギの被害が見えるようになってきた。」

「クマハギ」の状況

「クマハギ」があると回答した人の地域ごとの割合



庄内地域

33%

主な被害地

鶴岡市南部

最上地域

26%

主な被害地

・真室川
・大蔵村肘折から葉山山系

置賜地域

95%

主な被害地

小国、飯豊、
米沢、川西、
高畠、南陽
長井など

村山地域

56%

主な被害地

尾花沢市から
上山市までの
奥羽山脈沿い



その他、お気づきのことや御意見をお聞かせください。

イノシシが増えているという報告が多数あった。クマ、サル、ニホンジカ、ハクビシン、タヌキなども増えているが、高山での鳥類観測で、鳥類が非常に少なかったという報告もあった。

クマの増減は、ブナの実だけでなく他に複数の要因が関係するのではという意見もあった。

<イノシシについて>

「クマよりイノシシが増えて、田畑が荒らされて困っている。増え方が非常に多く困っている。

電気柵を取り付けないと収穫できない。耕作放棄地（過疎化現象）が多くなり、獣類の住処になっている。この状況では、農業がだめになる。山から里への被害が年々多くなっている。今から対策をしないと街場の農業もできなくなる。」

「昨年よりイノシシの農作物の被害が目立つ（稲、そば）」

「イノシシの多さに驚いている。山の奥にもたくさんいるし、クマも奥にも人里にもたくさんいる。」

「イノシシの増加（出没）が4倍くらいになったように思われる。」

<クマについて>

「若いクマと子連れの子が小さい縄張りで生活している。数年後にはどこにでもクマが出てもおかしくないようである。捕獲数を増やしてもらいたい。」

「飯豊山の稜線でクマが多数見られるが、（チシマザサのタケノコやイワイチョウなどの高山植物を食べている。）人に向かってくる事例が2件あった。（同一のクマと思われる。）中腹のヒメコマツやコマツガのクマハギも近年特に多く見かけるようになった。（標柱もかじられているものが多い。）」

「春先の調査確認時期にはあまり確認できなかったのが、夏場になってから急に確認情報が多くなった。人が入れない場所での子育てで活動範囲が狭かったが、子供が大きくなるにつれて、里山から住宅地、道路にと人目につくところまで移動してきた。」

「 月山朝日に行った際、道標の被害がかなりあり、これは材料に塗る塗料にクマに好まれるにおいがあるためだと思う。(塗料名キシラデコール)」

「 7～8月に3回ほど姥沢のリフトを利用。その際驚いたのは、鈴なりのブナの実。他所ではほとんど見かけない。どういうわけか上駅から下駅までの両サイドのブナにびっしり。他所の凶作をしり目にこの地域だけが大量発生。「秋には月山のクマが皆ここに集まるぞ」とリフト関係者に冗談を言っておいたら、案の定、10月9日に再びその地を訪れたら見渡す限りのクマ棚！リフト関係者が口をそろえて「こんな景観一度も見たことがない……」と。自然界は奥が深い……」

<小動物について>

「 ニホンジカやサルを多く見かける。」

「 小動物が増えてきた。(ハクビシン、タヌキ、テン、アナグマ)。最近キツネ、アライグマも見られる。」

「 9月15日と10月3, 4日の朝日連峰国指定鳥獣保護区のうち、古寺登山口から大朝日岳間で個体数調査を行ったところ、一羽もカウントできなかったことは、過去20年来経験したことのないことでした。朝日連峰では5月以降の夏鳥が例年に比べて異状だった。(少なかった)」

<山の実りについて>

「 ブナは凶作と言われているが、蔵王や月山では部分的に実をつけている。シードトラップを設置した場所では、まったく実をつけていない。(蔵王中央高原) 今年ヤマブドウは低い木に実がついている。高い木にはほとんどない。山形、上山の蔵王山系では、コナラ、ミズナラは木によって結実にばらつきがあり、全体的にはやや凶作と思っている。」

「 コナラ、ミズナラもやや凶作の印象。クマには大変な状況のようだ。」

「 クマ出没について報道では県の発表として「ブナの凶作」を原因の一つとして挙げているが、もっと複数の要因も説明してはどうか。(マスコミも簡単な説明で終わっているようだが。) 個人的にはイノシシやサルの増加で採餌エリアの競合もあるのではないかと考えている。」

7 まとめ

今年も、多くの方から6種の樹種の豊凶について貴重な情報をいただきました。

また、自由記載のなかで、たくさんの御意見などもいただきました。それらをまとめると、次のようになります。

<山の実りについて>

- ・ 昨年に引き続き「並作からやや凶作」の傾向で、あまり良くなかった。
- また、今年はコナラやミズナラの実りがよくなく、動物の餌不足が心配される。

<小雪によるクマの様子の変化について>

- ・ 冬眠をしない、春先から活動するなどの状況が見られたが、特に夏から秋にかけてクマの目撃件数が例年になく増加した。
- ・ その理由として、3年前のブナの豊作時に個体数が増え、若いクマが増えたことや里に住みついたクマが多くなったことなどが指摘された。また、山での実りが少なかったことなども理由の一つとして挙げられた。

<県内のクマハギの状況について>

- ・ 県内では、置賜地域の被害が多く、次いで村山地域（奥羽山脈沿いの上山市から尾花沢市まで）での被害が多いことがわかった。最上地域、庄内地域では一部「クマハギ」が見られるものの、広がってはいないことも分かった。

このように野生動物の動きや増減を注視しながら、自然環境の変化を的確に把握していくことが、今後ますます重要になってくると思われます。

8 謝辞

今回のアンケートでも、山の実りの状況やクマをはじめとする野生動物、自然環境についての的確な情報をたくさん頂戴しました。いつものことながら、御意見や考えをお寄せくださった方々に心より感謝申し上げます。

いただいた情報は、他の関係機関などと共有しながら、今後活かしていきたいと考えています。

担当 山形県環境科学研究センター 環境企画部

研究企画専門員 今田洋一

自然環境担当 竹村健一

令和2年 アケビ アンケート結果

グラフ凡例



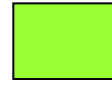
凶作



やや凶作



並作

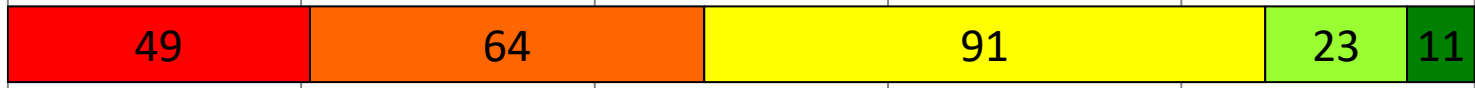


やや豊作



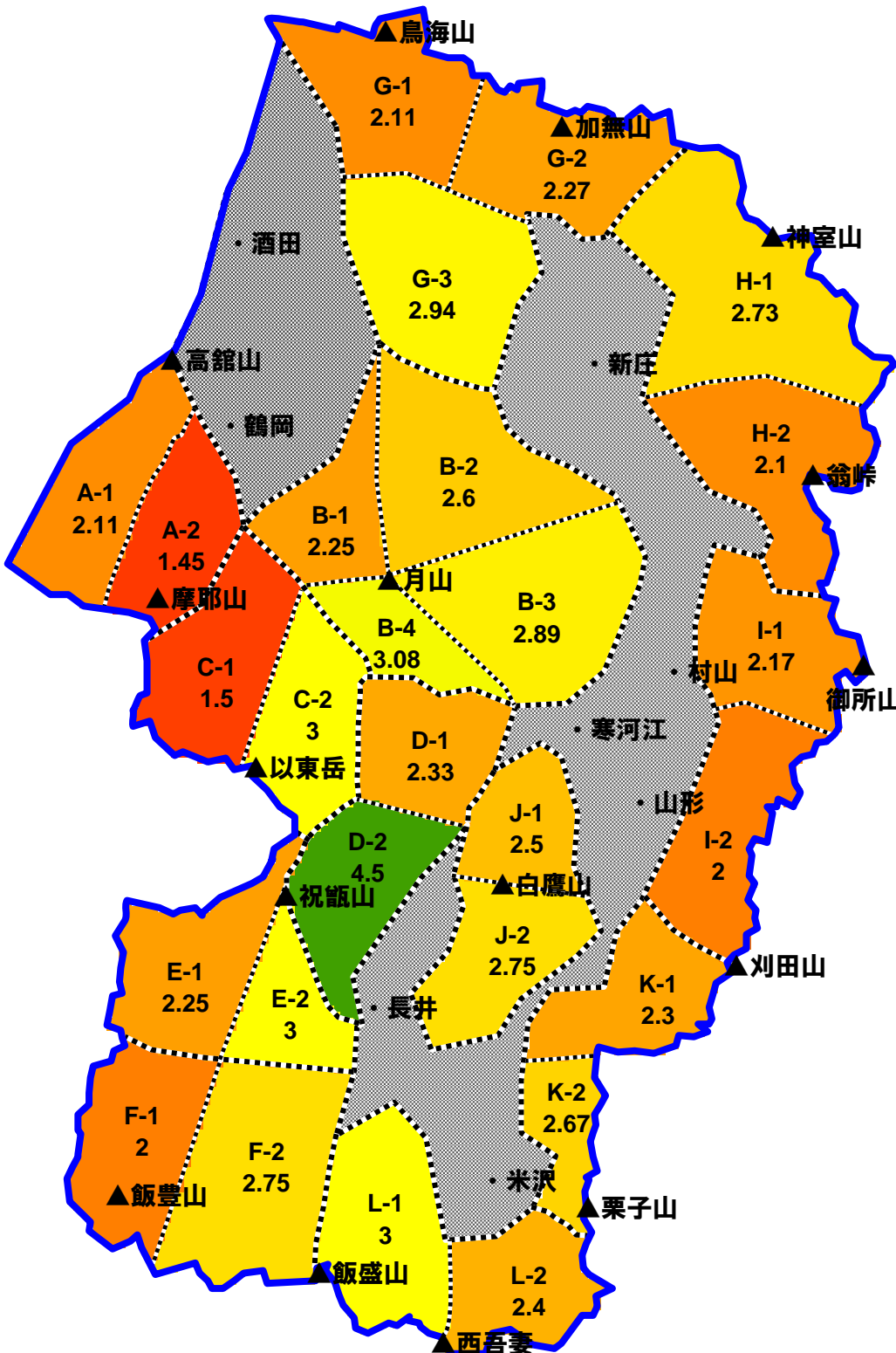
豊作

県全体回答数 238

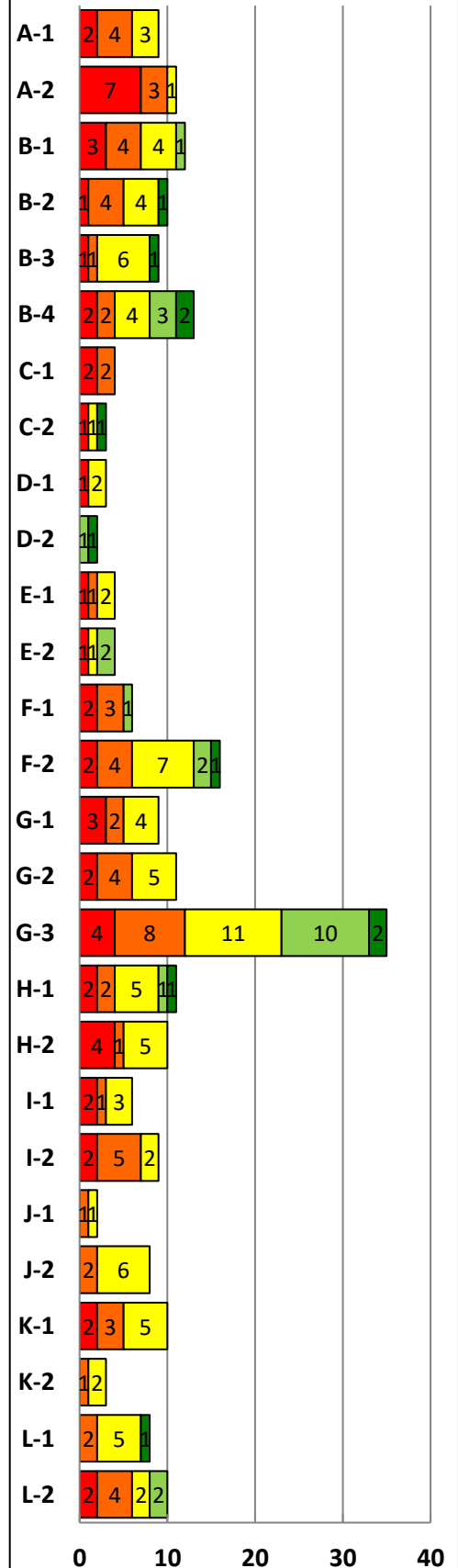


0% 20% 40% 60% 80% 100%

アンケートの豊凶結果の地域別平均



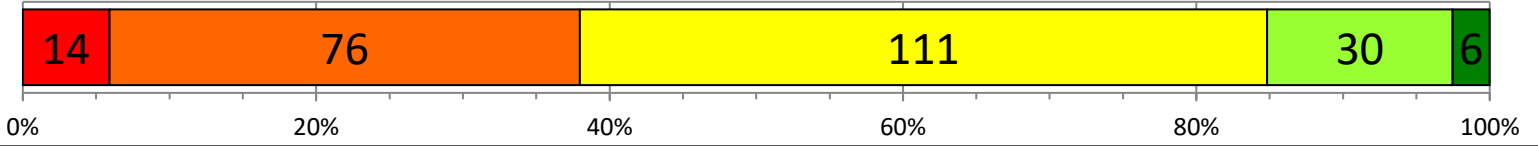
調査地域別回答数



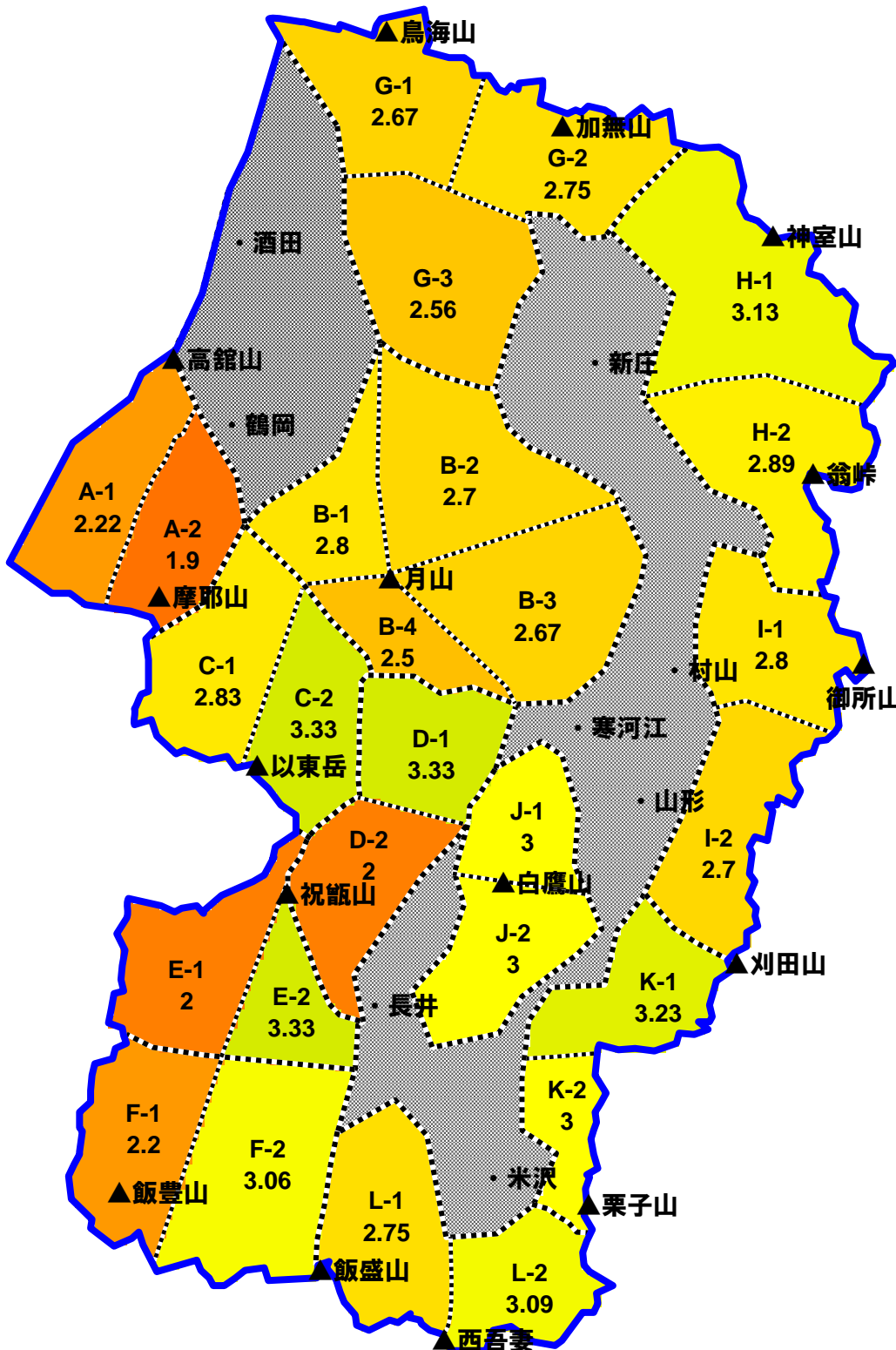
令和2年 オニグルミ アンケート結果



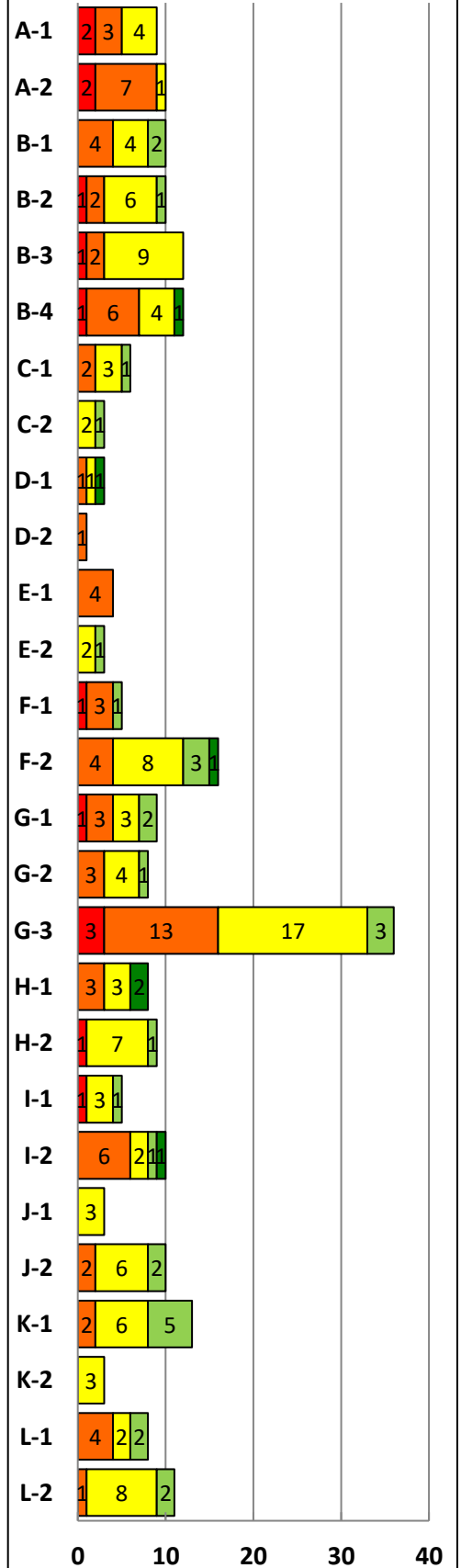
県全体回答数 237



アンケートの豊凶結果の地域別平均



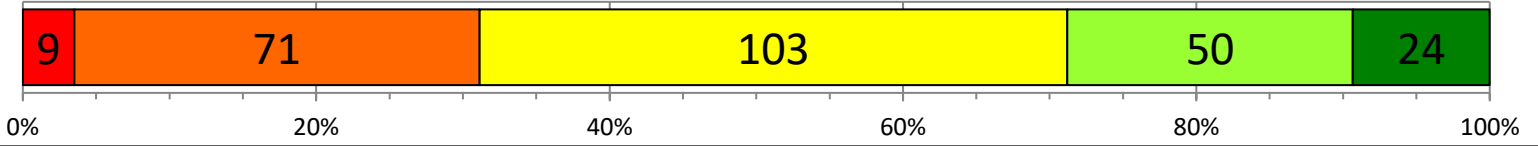
調査地域別回答数



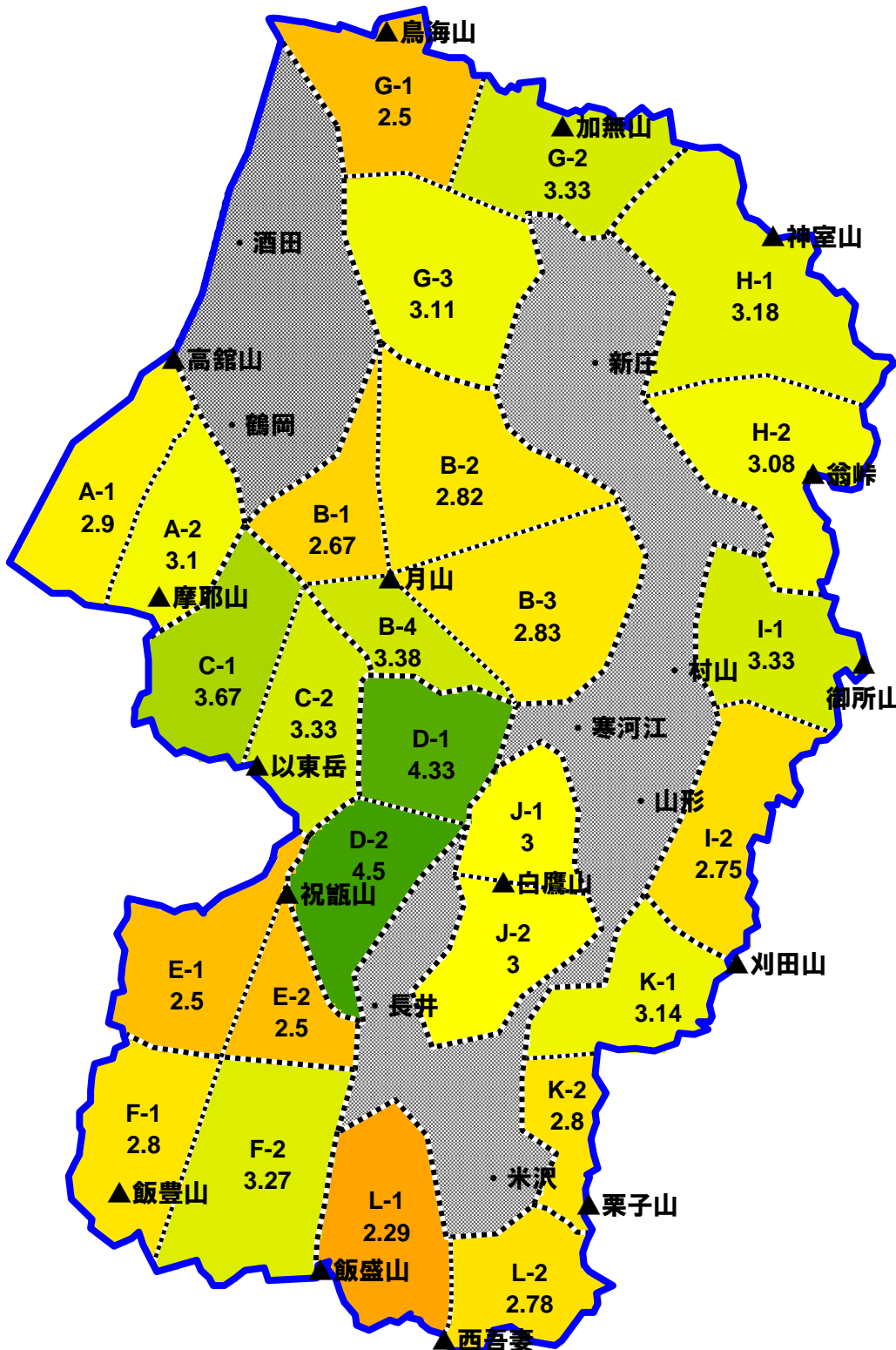
令和2年 クリ アンケート結果



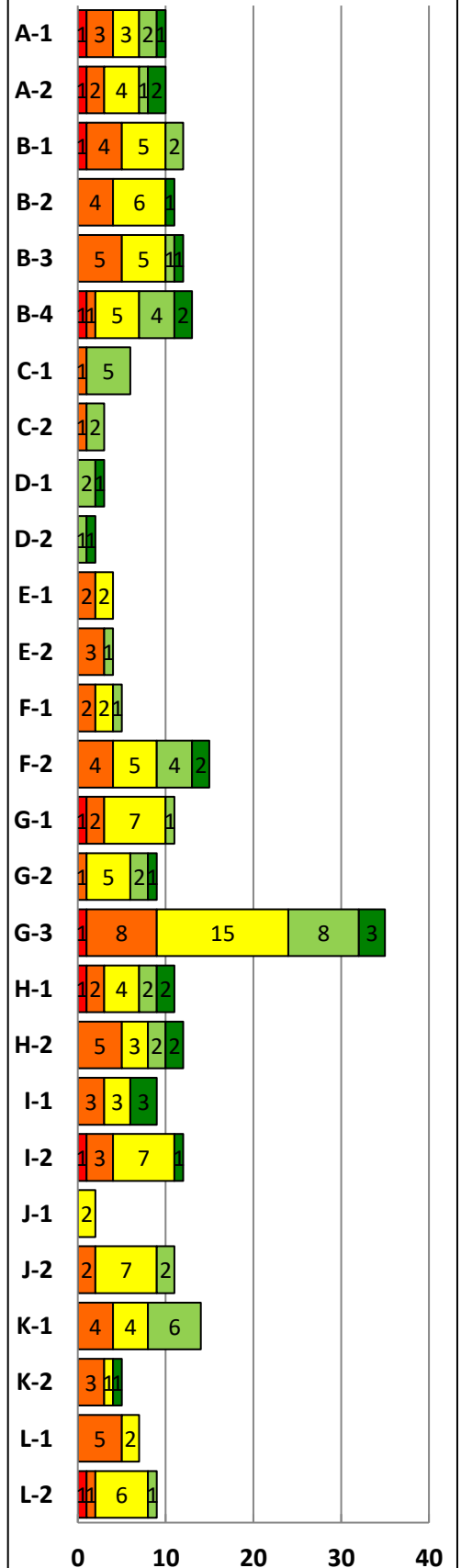
県全体回答数 257



アンケートの豊凶結果の地域別平均



調査地域別回答数



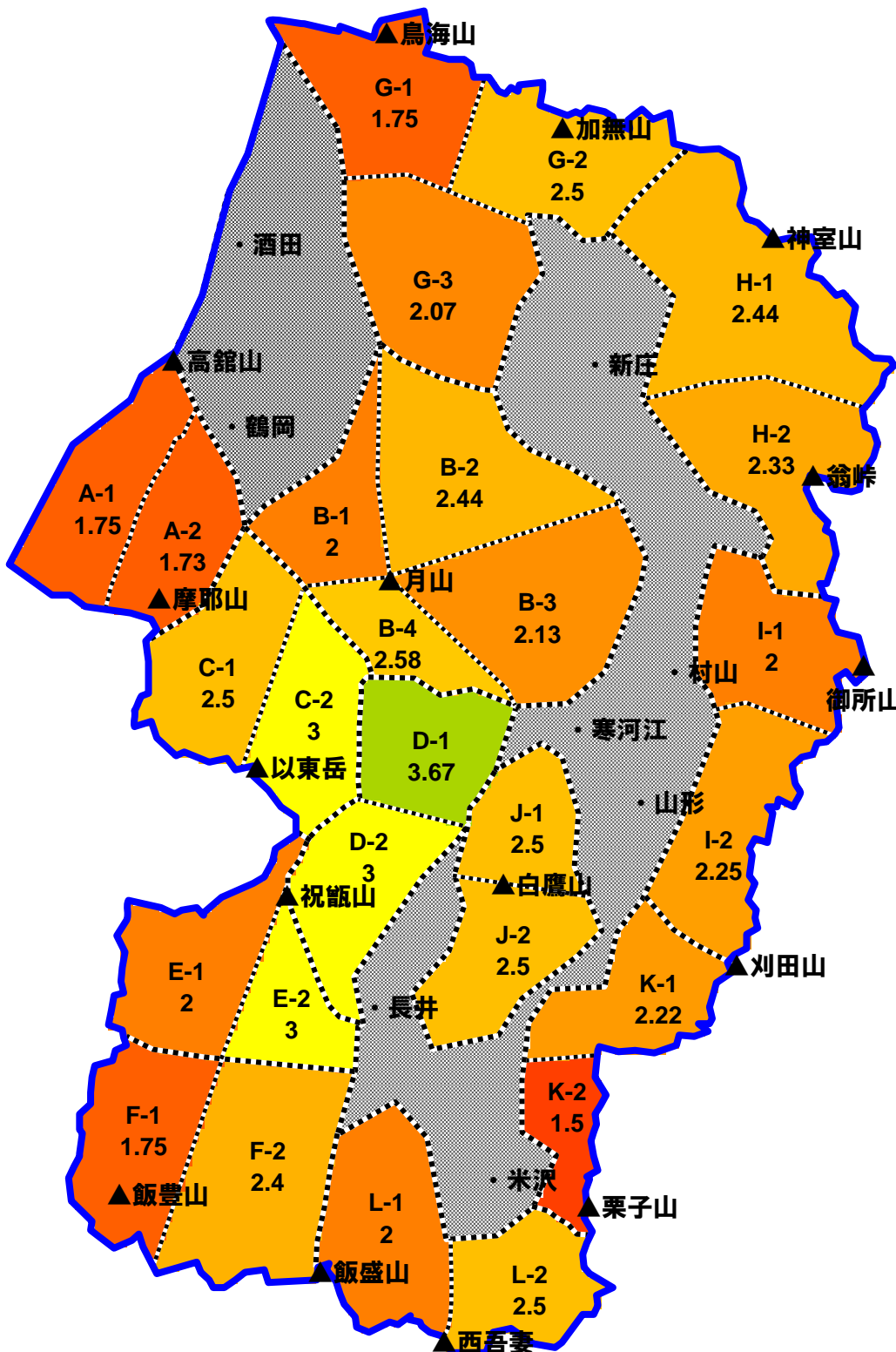
令和2年 サルナシ アンケート結果



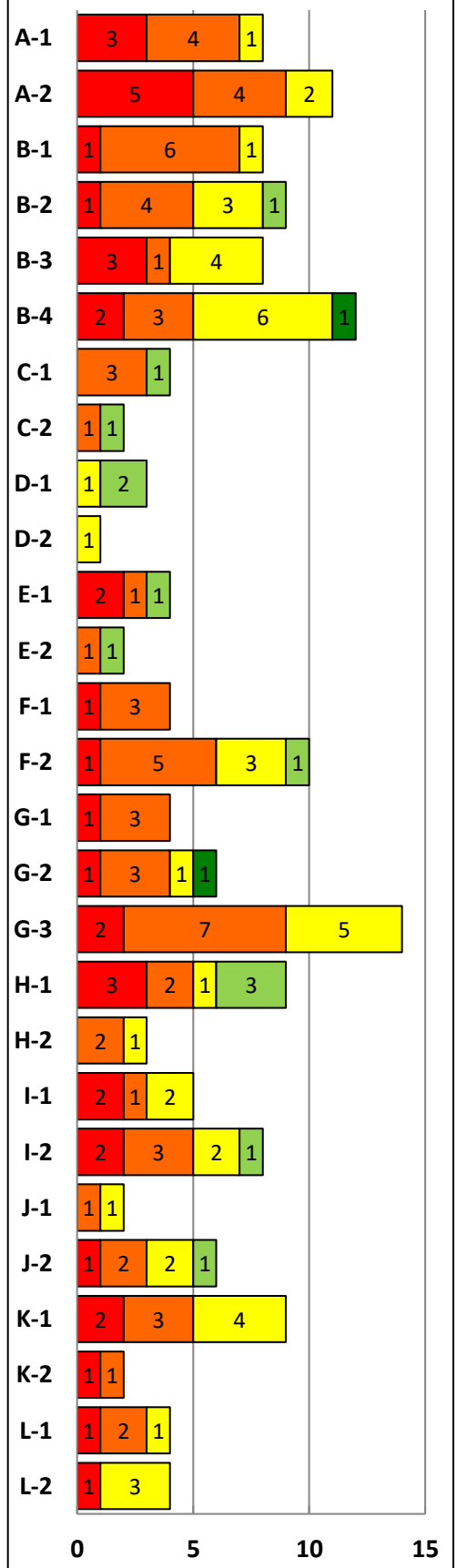
県全体回答数 162



アンケートの豊凶結果の地域別平均



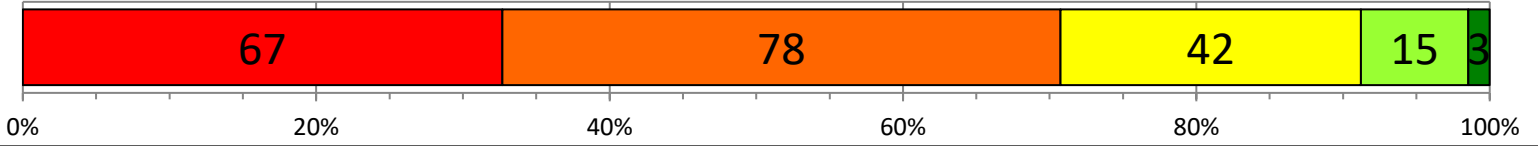
調査地域別回答数



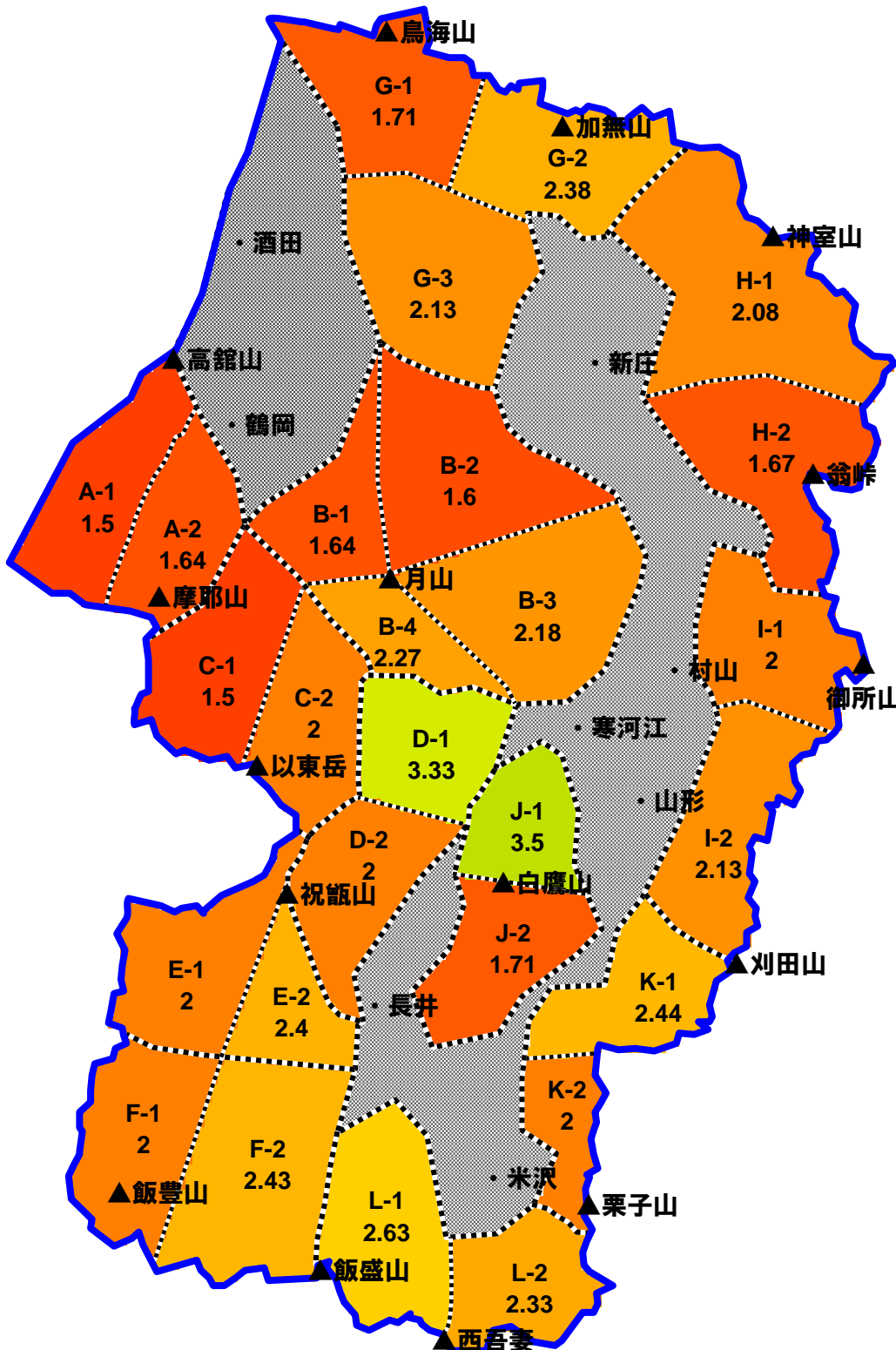
令和2年 ヤマブドウ アンケート結果



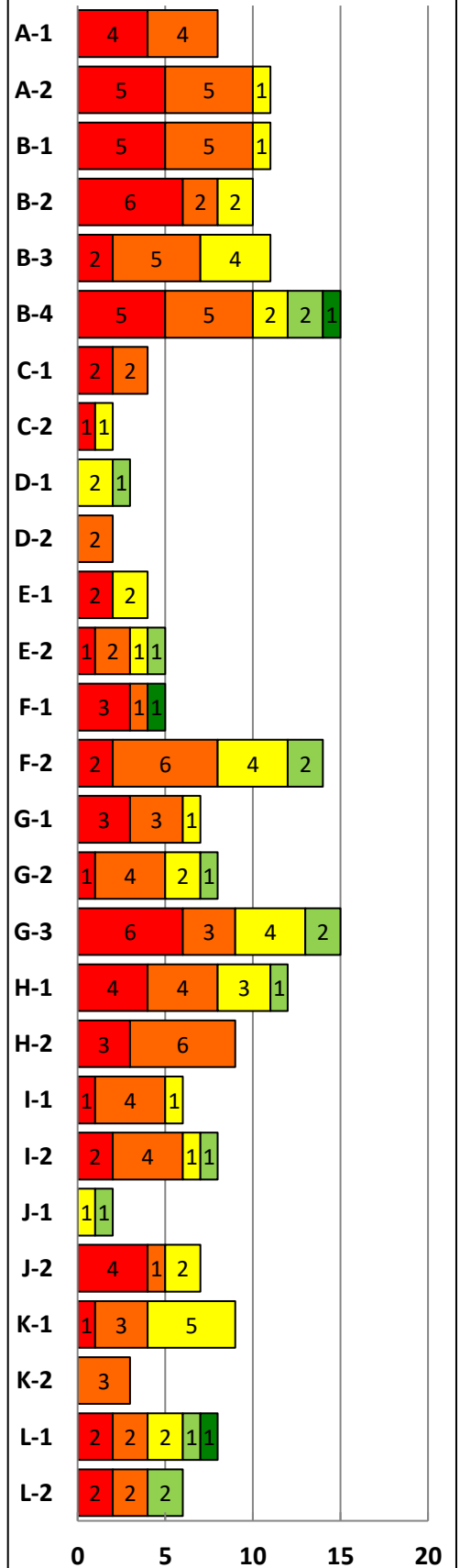
県全体回答数 205



アンケートの豊凶結果の地域別平均



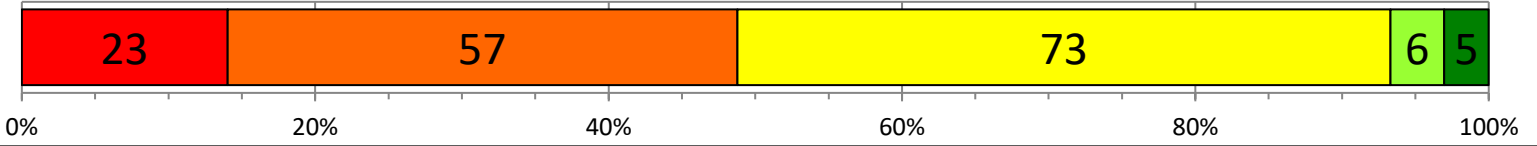
調査地域別回答数



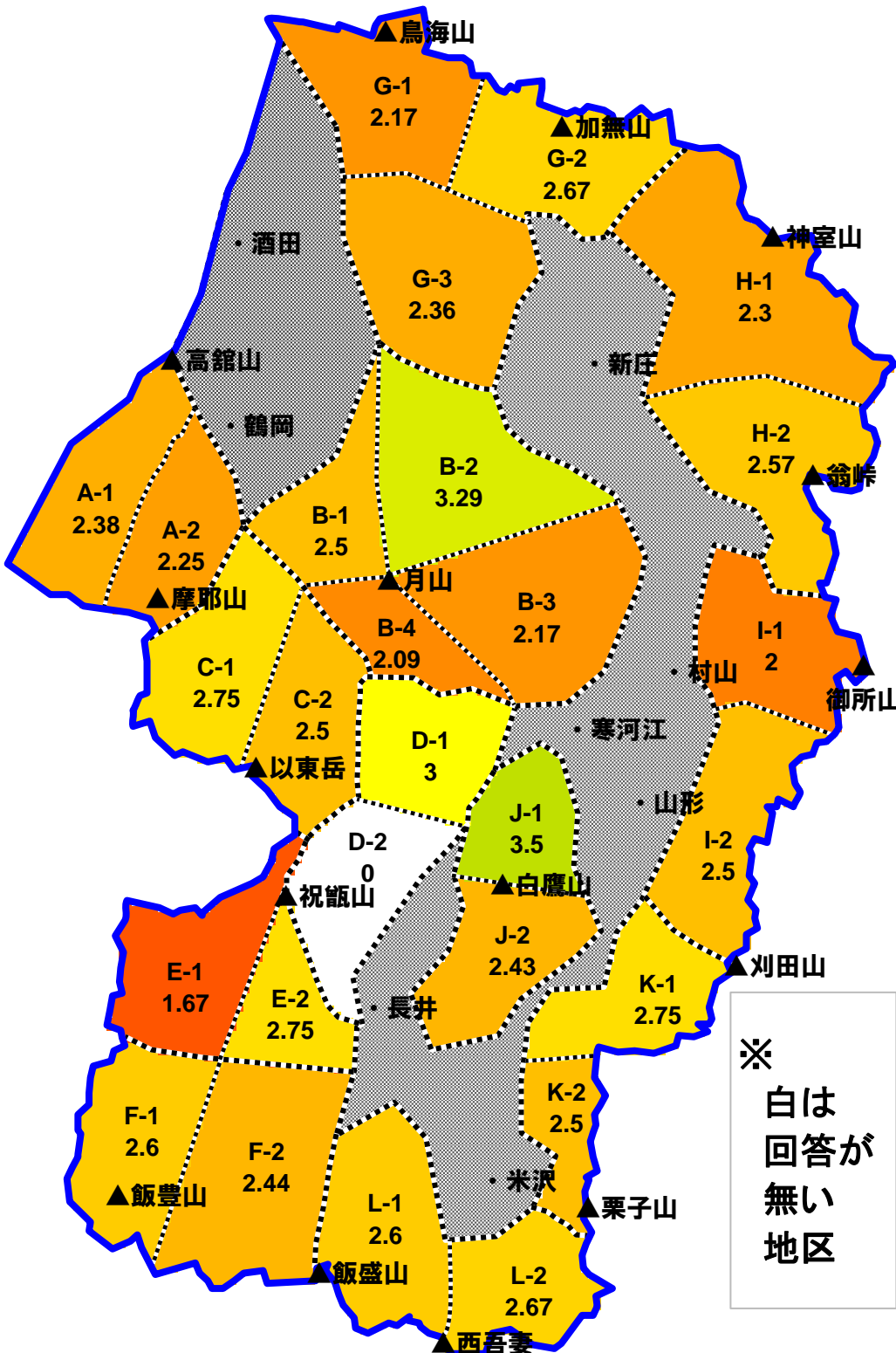
令和2年 キイチゴ アンケート結果



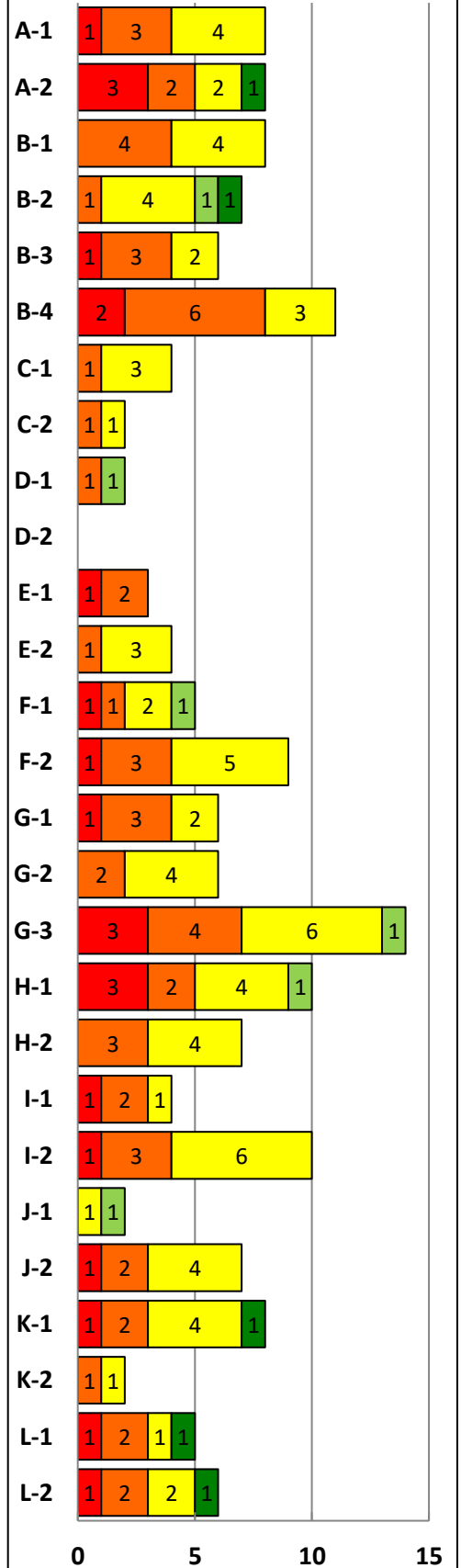
県全体回答数 164



アンケートの豊凶結果の地域別平均



調査地域別回答数



年度毎の豊凶傾向

